

# 道岳連だより

広報 NO.64  
平成24年2月15日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

## 北の峰々とともに60年

### 北海道山岳連盟小野倫夫会長 年頭挨拶

昨年は東日本大震災と原発事故による被害とそれに伴う影響が全国的に広がり、我が北海道は東北各県に比べれば少ないとはいえ、海岸部では大きな被害があり大きな痛みを負いました。

「がんばろう日本」のスローガンと「絆」の一文字は2011年を表しました。これからの復興に向けて、日本全体が心を一つにして進む決意と行動を我々登山者も意識していきたいと思えます。

道岳連は各活動分野で着実に事業、行事を実施しました。国体では5年連続入賞、成年男子女子の種目ボルダリング優勝という快挙は、天皇杯、皇后杯に貢献していることはいうまでもありません。又、高校総体登山男子の5位入賞も久しぶりのことです。

全道交流登山会は、阿寒湖周辺の山々を会場に行われました。今回は300人を超す参加で、主管釧路岳連の細かい配慮の運営と天候にも恵まれ、参加者は年に一度の交流会を満喫しました。指導者養成では、指導員、上級指導員養成の他、新たにクライミング指導員養成講習会も実施、新しい登山界の広がりが出来ました。遭対関係では、トムラウシ遭難以来実施されている安全登山シンポジウムや一般登山者対象の遭難対策研修会、又、海外委員会を中心に氷雪研修会や普及委員会の一般登山者と合わせて二度のトムラウシ山を会場にした講習登山会などを実施してきました。

さて、本年2012年は、北海道山岳連盟が誕生して60年目です。先人、先輩の積み重ねてきた道岳連へのご尽力を感謝するとともに、これからの北海道山岳連盟を多くの登山者のために新たな出発点として、共に力を合わせて参りたいと思えます。すでに実行委員会も立ち上げ、記念式典、祝賀会は10月21日と決まりました。そのほか様々の記念事業、行事、記念誌発行などが企画されます。是非全道各地から多くの会員の参加をいただきたい。

終わりに、安全登山を心がけ、加盟各団体が益々発展するよう倍旧のご協力をお願いし、今年が皆様方にとって充実した年になることを祈念し年頭の挨拶とします。



# 指導員養成講習に受講者奮闘！

## スポーツクライミング指導者養成講習会 11/19-20 深川

日本体育協会委託事業として、日山協が全国で展開するスポーツクライミング指導者養成講習会は、平成23年11月19日(土)～20日(日)にかけて、深川市の北海道立青年の家で開催された。

今回は、9月23日～24日の前期に引き続いて、後期養成講習会として実施されたもので、内容は「クライミング技術」と「基礎理論及び学科」に別れ、13名の受講者に橋村、石井、林、山納の各上級指導員と医学及び法律の専門家それぞれが講師・検定員として指導にあたった。



法律学演習

ボルダリング指導法



## 上級指導員(AC)養成講習会 12/10-11 安政火口周辺

今年度の上級山岳指導員の積雪期講習会は、12月10日(土)～11日(日)の二日間にわたり、十勝連峰安政火口周辺と吹上保養センター白銀荘を会場に19名が参加して開催された。

講習内容は、アイゼン・ピッケルの基本、耐風姿勢、雪上歩行、滑落停止、雪山のセルフレスキュー及び学科検定試験で、あいにくの吹雪と厳寒の中、参加者は熱心に課題に取り組んだ。

### 山岳上級指導員(AC)冰雪技術養成講習会に参加して 朝日田 久美子

1日目(土)は、風雪の斜面でSAB(スタンディングアックスビレイ)からの自己脱出の講習をしました。午後から雪予報の中、全員が十勝岳温泉駐車場に集合し、19名の参加者は開始時間前には装備を身につけ、互いに親しく挨拶を交わしながらも気合がみなぎっていました。

最初にH講師からSABのロープ操作のお手本と、土のう袋を使った支点作りをしました。12月上旬の軟らかい新雪斜面では、力いっぱい引っ張ると抜けてしまい、私は今年の4月中旬に利尻岳の東稜で、シバ草を埋め込み支点にした時は全体重をかけるのではなく、手掛かり程度に利用し、トラバースの時に有効だったのを思い出して、土のう袋の支点も雪質によるところが大きいのだなあとよく分かりました。SABは2人1組になり、Sさんと組んでプラトーを作り、滑落者に思い切りテンションをかけられると、メインロープは私の肩にくいこみ、それをしゃがみこんでプルージックをかけようとする、メインロープは雪中に埋もれているので掘り出すようにしてプルージックをかけるのですが、ロープが凍っているためか効かないのです。冰雪の中では少し細めのプルージックにするなど応用力が必要になります。教本の知識と、講習会での技術の他に数多くのキャリアが大自然の厳しい岩登攀と冰雪登攀には要求されると思います。

この日は富良野市内では-25℃だったようで、中高年齢の私は、オーバー手袋の中に小さなカイロを貼りました。1/3プルアップ(この場合はロアダウンに)ロープを操作してみたのですがうまくいかず・・・でした。Mさんが持ってきたスノーピケット(バー)が力を加えたら、へし曲がってしまった。古いスノーバーは使わないほうが賢明です。全員がテルモスのお茶も行動食も取る間も惜しむかのように、真剣そのものの訓練でした。実技講習終了時間の15:00頃には身体は温かいものの、まつげが凍ってしまい、トレースはすっかり消え失せ、再び先頭がラッセルし駐車場へ下りました。

そのまま白銀荘へ各々車を向け、暖をとるまもなく、ウェアやハーネスを乾燥室に干しながら菓子パンを一つかじってから、大部屋で筆記試験です。おなかがすき、のども渴いているはずなのですが、知識不足、技術不足の私は時間が大幅に足りず、勉強不足を痛感した試験でした。あとはみんなで遅い夕食です。各々準備も手早く道内各地の海の幸、山の幸、絞りたての牛乳etcです。20年30年と山に浸ってきた24名の話は尽きず、遅くまで山の話にふけりました。

2日目(日)は終日雪予報でしたので、三段山斜面で雪の降りしき中、実技講習です。斜面を踏みならし場所作りをしてから、最初に「胸までの深雪ラッセル技術」を体験しました。私は雪の少ない道東で、羅臼岳木下小屋尾根ルートや斜里岳玉石沢ルートの斜面で、太ももまでのラッセルに足が上がり手こずりました。深雪にピッケルを両手で横に持ち、雪を手前にかきだし押し当て、膝を押し、その跡に足を進めてゆくラッセル法を試してみるつもりです。

今回の上級指導員(AC)養成講習会は、私には身の丈以上のレベルの高さでしたが「山は命にかかわるスポーツ」ですので「仲間の安全と自分の安全」のために学びたいという目的で参加申込みをしました。危険な岩場や氷雪斜面を自己脱出して救助する技術を直接学べたこと、また一般スポーツ学では「心理学スポーツ」の教本での講師の方から、男女、年代、性質の違いなどによる指導法やフォローの方法など、大変興味深く、実技、学科共に勉強になっています。6月からスタートした上級講習会は、今回の上富良野で5回目になりますが、次回1月のアイスクライミング研修会は、私のオホーツク海側からは比較的近い層雲峡なので、アイスバーンの冬路運転を考えるとホッとしています。スタッフの皆様、講習会参加の皆様お疲れ様でした。



## 平成23年度公認山岳上級指導員養成講習会&検定会を終えて

(期間 平成23年6月～平成24年1月) 報告 釧路山遊会 下山シゲ子

平成23年度上級指導員養成講習会、及び検定会に受験者18名(男10名、女8名)が、6月の無雪期の岩登り技術の講習から始まり、1月末の積雪期の氷雪技術の検定をもって終了した。

無雪期の岩登り技術は、ロープワークの基礎知識、隔時登攀、制動確保、懸垂下降、登山界の状況から近年追加になった岩場のセルフレスキューの指導法と実技が検定内容だった。セルフレスキューは、岩壁でのビレイからの自己脱出や、懸垂下降時のロープの繋ぎ目の通過などは慣れない言葉と技術の連続。万が一に備え真剣にマスターしなければと、仲間と何回も何回も練習を重ねて検定に臨んだ。

積雪期の氷雪技術は、アイゼン・ピッケルの基本的な知識、雪上歩行、隔時登攀、同時登攀、滑落停止、雪山のセルフレスキュー。12月の十勝岳安政火口周辺での氷雪技術講習会は厳寒と強風・吹雪の中で、アンカー設置・スタンディングアックスビレイ・自己脱出の訓練は手足も凍え、凍傷寸前の中でもやらなければならないという厳しさも体験した。また、セルフレスキューは、ピーコンで雪崩埋没者の捜索や、スキー橇を作成し負傷者をテント梱包して搬送するなどが実技検定にあり、事前に仲間と情報交換しながら学習を深め、試行錯誤して何とか形にして検定に臨んだ。

道岳連の上級指導員検定要項に「登山者全体に積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導できる指導者を養成する。」と、養成目的を設定しているように、指導法と実技に重点が置かれており、「指導法は手順・要領・そして明確に説明できることを求められ、実技は要点を強調し、正しい用語で説明して実際に行動できる」が、検定評価基準であった。知識を習得し、実践しながら指導するという難しさに戸惑いながらも山岳会ごとに、又仲間たちとお互いに指導者になったり初心者になったりして、繰り返し訓練を行った。

山岳専門科目以外に、日本体育協会公認スポーツ指導者の共通科目Ⅱの講習会&検定会、そして氷壁登攀の基礎技術講習会を受講して全てが終了。

この一年間を振り返って、苦しい時もあったが、共に苦勞を分け合い協力しあった仲間と、私たちを導いてくださった指導委員長をはじめ、担当してくださった講師の方々にお礼と感謝の気持ちでいっぱいです。

学んだ知識や技術を生かし、地域、自治体、また道岳連や山岳会が主催する行事に参加し、安全登山の指導や啓蒙に努めていきます。

## 氷壁技術講習会 1/21-22 層雲峡銀河の滝

本年度の氷壁講習会は、道岳連加盟団体の一般参加者 11 名、アルパインの上級指導員受講者 17 名と講師 6 名の総勢 34 名で、層雲峡銀河の滝で行われた。

1/21 は下部にトップロープ 5 本をセット、アックスの打ち方や足のけり込み方、安定したフォームの取り方など基本講習の後、グレードが様々なトップロープにて練習。一人 2 本から 5 本とグレードがまちまちなところを登る。層雲峡らしからぬ暖かく風の無い絶好のクライミング日和の中、15 時過ぎに終了。宿入りした後は、夕食とレジメを使った本日の復習と翌日の予習を行う。その後は懇親を深めた。

翌日は、橋村講師の下、総勢 5 名は銀河の滝上部まで実践登攀。残りは下部にて昨日と若干ずらしたところにトップロープをセット。昨日の復習をした後、アイススクリュウのセットや回収、アバラコフのセットなどの講習。リードでのスクリュウセットなどの練習を行い、昼過ぎに終了。前日とは打って変わり、曇ったり雪が降って風が強い中の講習で、冬のクライミングの辛さを体験できた様子であった。皆さん充実した様子で怪我もなく終了でき、来年度もこのように盛り上げられと思います。参加者の皆さん、講師の皆さん、有難うございました。

報告者 海外登山委員会委員長 工藤 寛



## 氷壁技術講習会を受講して

レインボウクラブ 渡邊 夕理恵

2日間にわたり、層雲峡銀河の滝でのアイスクライミングの基礎技術を教えていただけるということで、とても楽しみにしていました。2日目に若干の雪が降りましたが、概ね天気にも恵まれ、自然を満喫しながらアイスクライミングの技術を学ぶことができました。

アイスクライミングは一度しか経験がなく全くの初心者でしたが、アックスの持ち方や打ち込み方、アイゼンワークの基本からアイスクリュウの使い方や支点の取り方など、一歩進んだ技術を丁寧に教えていただきました。下の方

でアックスの打ち込みやアイゼンの蹴り込みを練習するとそれなりにできているような気がしましたが、実際にハーネスにロープを結び登ってみると、思い描いたようには登ることができず苦戦しました。

また、研修には道内各地から多くの方が参加されており、登山の経験豊富な方々ばかりで、懇親会では冬山だけではなく、様々な山に関する情報をいろいろ教えていただいたのも貴重な体験でした。まだ登ったことのない山もたくさんあり、夏山登山への期待も大きくなりました。

アイスクライミングはシーズンも短く楽しむ機会も限られていますが、今回の講習で学んだことは必ず次の機会に生かしたいと思います。

今回、研修を企画・運営して下さった北海道山岳連盟の皆様、いろいろ教えてくださった受講者の皆様ありがとうございました。



## 指導員に関わる記事抜粋

日本体育協会が指導者向けに発刊している「スポーツジャーナル 冬号」に、平成23年10月1日現在の日体協加盟団体別公認スポーツ指導員登録状況が掲載されていた。

加盟56団体のうち、山岳(日山協)指導員の総数は2,528名で、指導員1,061名、上級指導員1,308名、コーチ68名、上級コーチ91名となっている。山岳は教師資格の養成を行っていない

ため単純に比較はできないが、総数では団体中 13 番目にランクされる。ちなみに、登録数の上位 3 団体は、サッカー 31,774 名、水泳 19,624 名、バレーボール 12,539 名である。

また、昨年 7 月 15 日発行の「登山月報」の中に、平成 23 年 6 月 11 日に開催された日山協平成 23 年度指導委員会総会の報告が掲載されている。既に道岳連指導委員長より、各種会合で報告されているものもあるが、注目される事項のみ抜粋再掲する。

#### 指導委員会の新しい方向性(永井委員長)

日山協は平成 25 年から公益社団法人になる。公益目的で事業を推進していかなければいけない。

今までは日山協・都道府県岳連の組織の中だけでよかったが、今後は不特定多数の方々の為の組織に転換していかなければならない。

指導員も日山協の中で指導、養成していれば良かったが、今後は組織外も対象とし、アルパイン、スポーツクライミングの 2 本立てで考えなければならない。スポーツクライミングに関しては、指導委員会で作成し一段落したところで、今後はハイキングインストラクターについて取り組んでいかなければならないが、不特定多数の方々を指導していくとなると、インストラクターではなく、リーダーとして育成していく必要があるのではないか。山ガールなどを取りこんで、その方々にも資格を取れるような方向で考えなければならない。

トレイルランの指導者制度をも作ってほしいとの要望もある。ある程度、ハイキングリーダーが指導者制度の基礎資格として確定すれば、多方面に対応できる可能性ができてくる。今年度中に考えてまとめていきたい。

国立登山研修所との協業や中高年講習会と一緒にやっていくことも考えられる。ガイドの方々にも教師の資格を取っていただき、ジムの方々にはスポーツクライミングの教師の資格を取っていただくと UIAA (国際山岳連盟) に沿った形になる。

ハイキングリーダーは日体協ではなく日山協の資格として考えている。独自の資格としてやっていく事で指導員の増加も期待できる。これらは、指導委員会の今年度、来年度の大変な事業になっていくと考えている。

## 指導委員会山岳スキー運営委員会事業

### 山岳スキー技術指導員研修会 12/23-24 札幌国際スキー場

平成 23 年度「山岳スキー指導員講習会」は、12 月 23 日(金)～24 日(日)の 2 日間、札幌国際スキー場と白井岳を会場に開催予定で山岳スキー指導員 15 名が参加。1 日目は吹雪の中で講習会を実施するも、強風のために時折リフト停止の状況となる。翌日は、引き続き荒天でスキー場がクローズし、講習は中止とした。講習の内容として、グレンデにおける深雪滑走をメインテーマに、ベーシックターンをしっかりと研修。DVD 収録を意識した滑走訓練を行った。

### 山岳スキー技術講習会 1/14-15 日高国際スキー場・日勝ピーク

平成 23 年度山岳スキー技術講習会が、年明けの 1 月 14 日(土)～15 日(日)の 2 日間にわたって開催された。受講者 9 名とスタッフ 5 名が国立日高青少年自然の家に宿泊し、日高国際スキー場と日勝ピーク掘グレンデ周辺を会場に、基礎スキー滑走と深雪滑走、シール登高技術とルートファインディング、山岳スキーセルフレスキューなどを実践した。

# 普及委員会冬山安全登山講習会inニセコ

普及委員会では冬山の魅力を存分に味わって頂きたいと、1月28日(土)～29日(日)の2日間「冬山安全登山講習会」をニセコで開催しました。

一日目は、チセヌプリスキー場周辺で、基礎編として「雪崩対策として弱層テスト、ビーコン捜索」、登山における「シール登行、方向転換、安全な下山方法」など、応用編として「パウダー滑降の練習」を行いました。一般募集で参加した人達には、初めて経験する事柄が多かったようで、方向転換では「抜き上げキックターン」に悪戦苦闘、パウダー滑降では「上下の動き」が難しかったようでした。

二日目は五色温泉からニトヌプリを目指してスキー登山。「曇り時々小雪」の中、一面の銀世界を地形図・コンパスで目標を定めて進み、予定より早くニトヌプリ山頂に到着。山頂では強風に晒され、瞬間に体温を奪われる様子を体験し、冬山の厳しさを実感しました。下山途中の急斜面では素晴らしいパウダースノーに恵まれ、参加者一同思い思いのシュプールを描いて滑り降り、時間



(左)弱層テスト (右)埋没者の捜索訓練 (いずれもチセヌプリ中腹)

に余裕があったので、再度登り返し、絶好のパウダースノー滑りと五色温泉を眼下に、樹林帯の中「パウダーツリーラン」を愉oshimimashita。

参加者みな元気に下山、楽しいパウダー滑りに名残惜しい気持ちを抱きながら講習会を終了しました。

なお、雪崩対策等は秋元講師(札幌山の会)、山スキー講師はアルペンが荒堀講師(新得山岳会・道岳連常任理事)、テレマークが久保講師(新得山岳会)が指導しました。

第二弾は、2月18日(土)～19日(日)に「日勝峠周辺及びペケレベツ岳」で開催します。乞うご期待!!

報告者 普及委員会委員長 荒堀 英雄

## 「冬山安全登山講習会(ニセコ会場)」を受講して 函館岳友会 野辺地 千代子

2012年1月28日(土)早朝、道南の自宅を-18℃と言う、あり得ないような寒さの中ニセコチセヌプリスキー場をめざし出発した。

天気予報に反し快晴の中、午前中の研修は基礎編として、シール登高・雪崩事故防止(弱層テスト・ビーコン操作など)のほか、道岳連が推奨する方向転換(抜き上げキックターン)の仕方を実地講習していただいた。

午後は、応用編としてテレマークスキー班とアルペンスキー班に分かれ、ゲレンデにおいて

滑走技術講習を受けた。具体的な回転技術や、深雪においては屈伸運動がポイントである事が指導されたが、頭で分かっても身体まではなかなか到達できなかった。

15時過ぎ、宿舎の五色温泉旅館(本館)に移動し、冷えてさらにガチガチに固まった筋肉をもみほぐすべく湯殿へまっしぐら。ちょっとぬるめの乳白色の湯の中で「ハア～」と一息ついたところで、露天風呂へ行ってビックリ！大雪が三方から押し寄せ、まるで雪洞にいるような感じ、中央ロープには『Dangerous』の木看板もぼんやりぶら下がっていた。

夕食後は、講師部屋で机上講習。『バックカントリー入門～雪山のリスクと対策～』安全登山を振り返る。地図を使ったGPS測位などを学び、さらに現在道岳連が作成中の山岳スキーDVD放映では、先生たちの華麗な滑りを鑑賞することができた。

1月29日(日)ニトヌプリ登山 8:30 五色温泉から登山開始。天候は曇り。雪質はパウダースノーというより羽(フェザー)に近いくらい軽く細かい。宿の女将さんが「例年に比べ気温が低く積雪量も多い」と話していた事を思い出しながらひたすら上へ、上へ。こんな低温の冬山登山なのに汗びしょり。ゴーグルはく雲って外すと凍るという状況。山での登りはゴーグルではなくサングラスの方が良い言う事を教えてもらった。

地図読みで方向を確認しながら休憩無く登る。周囲の景色や冬山の独特な空気を楽しむ余裕など私には無かったが、足の運び・ターンの仕方など具体的かつ細やかに指導をしていただき、とても有り難かった。途中、弱層テストのためスキーを外した途端、重い私の下半身はあっという間に腰まで埋まり、またまた四苦八苦の汗かきだった。

ニトヌプリの頂上が見え始めた頃、すっきりとした晴れ間に他のグループの登山姿を確認。

まるで「BSテレビのグレートサミツみたい」と感激の言葉を口走り、皆が失笑。疲れて無口だった私にとってニトヌプリはまさにグレートであった。



12:00 少し前、頂上到着(ヤッター！)

雪・風で龍のような衣を着た標識を入れて証拠写真をパチリ。強風の中、直ちにシールを外し下山滑走開始。パウダーというよりフェザースノーの深雪を皆楽しんでた。(ひとり余裕無く強張りながら滑走) 中腹ですばらしい斜面に遭遇し、経験豊かな先生たちも興奮・絶賛。斜面下から再度登ってもう一度滑りを愉しむ事となった。ようやく滑り降りた私にお付き合いをしてくれた。会長がビデオ撮影係りとなった。下から滑走は明瞭に見えたが、上からは視界が悪く斜面の凹凸すら分からず転倒したという話を聞き、冬山の不思議を実感した。林間滑走(ツリーラン)も味わい、下方に宿の姿を黒く確認でき、ブリューゲルの絵画のようだと感激する心と、まだ気を引き締めなければという気持ちを保ちつつ、ようやく午後2時過ぎ駐車場に到着した。

予定どおりの時間、温泉玄関前で閉会式、皆々様に感謝・感謝で帰路に着いた。



# 今後の諸行事

## 冬山安全登山講習会第二弾(日勝峠・究極のパウダーエリア)

1. 期 日 平成24年2月18日(土)～19日(日) 普及委員会事業
2. 会 場 1日目 日高国際スキー場とその周辺  
2日目 日勝峠から1445Pを目指して登山
- 宿 泊 国立日高青少年自然の家 ⇒ 沙流川温泉日高高原荘
- 参加料 道岳連会員 7,000円 ⇒ 8,000円

## 山岳スキー講習会及び検定会

1. 期 日 平成24年2月25日(土)～26日(日) (宿泊) 吹上温泉保養センター白銀荘
2. 会 場 25日 山岳スキー技術講習会 十勝岳連峰・三段山山城  
26日 山岳スキー技術検定会及び技術講習会 三段山山城深雪ゾーン
3. 参加料 8,000円(参加料は当日宿泊所で徴収、交流会費は別途)
4. 集合場所 2月25日(土) 午前9時30分 白銀荘前集合
5. 行 程 1日目 10:00 スキー登高&滑走技術講習会  
18:00 学科テスト  
19:30 実情交流会  
2日目 8:00 検定受験者→三段山新雪深雪ゾーン滑走研修&検定会  
講習会のみ参加者→三段山山城スキー滑走  
14:30 現地解散
6. 携行品 冬山登山服装と装備、山岳スキー用具一式(シール、スキーアイゼン含む)  
雪崩対策用品(ビーコン、スコップ、ゾンデ棒)、コンパス、地形図、筆記具、  
行動食(25日、26日昼食)、非常食、他必要と思われるもの  
※検定受験者は、ザック重量(男子10kg 女子7kg以上携行すること)
7. 担 当 森 紘昭(帯広山岳会) 西嶋 克己(札幌山の会)
8. 申込締切 平成24年2月18日(土)
9. 申込方法 FAX 又はメールで 森 紘昭(帯広山岳会)宛  
TEL&FAX 015-572-3272 E-mail [hiroakim@lapis.plala.or.jp](mailto:hiroakim@lapis.plala.or.jp)

## 日山協競技委員会フロック別研修会

1. 期 日 平成24年3月3日(土)～4日(日)
2. 会 場 北海道立深川青年の家
3. 内 容 ・日山協公認クライミング競技C級審判員認定研修  
・国体競技運営員認定研修 ・競技運営研修 その他

## 山岳スキー技術研修・強化合宿(がんばっぺ東北ツアー)

1. 期 日 平成24年3月23日(金)～26日(月) 3泊4日
2. 会 場 青森県 八甲田山・高田大岳



## 小樽赤岩ルート整備の状況

### ●赤岩ルート整備協議会の経過

- 2010.12 北海道山岳6団体忘年会の席上において、北海道山岳連盟石井昭彦競技委員と道央地区勤労者山岳連盟長水 洋遭対部長の間で、赤岩ルート整備について意見交換。
- 2011.1 北海道山岳連盟と北海道勤労者山岳連盟で協議会を立ち上げ、赤岩ルート整備を進められないか、各団体理事会等に打診。
- 2011.3 各団体とも協議会を立ち上げて、赤岩ルート整備をすることを了承。北海道山岳連盟は赤岩の地域的な特徴から小樽山岳連盟が担当。北海道勤労者山岳連盟は道央地区勤労者山岳連盟が担当すると回答。
- 2011.4 代表を小樽山岳連盟会長 西 信博、副代表を道央地区勤労者山岳連盟会長 尾谷 賢に。事務局は北海道山岳連盟競技委員 橋村 昭男、会計は道央地区勤労者山岳連盟副会長 長水 洋に決定。
- 2011.6 郵便局に「小樽赤岩ルート整備協議会」名義の口座を開設。
- 2011.7 秀岳荘、石井スポーツ、ノマド、北海道山岳ガイド協会に協力・募金要請。
- 2011.8-11 ボルト設置勉強会・講習会(秀岳荘 小田 光昭講師)、ルート整備実施  
※事務局、実務者打合せ会議等は割愛してあります。

### ●2011年 ルート整備の状況

8.28	四段テラス～終了点、猫岩～終了点(各2本) ピナクル岩～最終ピッチ終了点(2本) 東チムニー岩ジェードル～終了点(2本) ジェードル右リッジ～終了点(2本) 東チムニー～終了点(2本) 作業16名	9.28	東大壁佐藤ルート～取付(2本)、1ピッチ終了点(2本)、頭・終了点(2本) 小林ルートBクラック～取付(2本)、クラック終了点(2本)、頭・終了点(2本) 小林ルートCクラック～クラック終了点(2本) 馬の背～終了点(2本) 作業5名
9.8	不動岩稜～Bフェース取付(1本) Bフェース頭(2本)、Cフェース取付(2本) Cフェース頭(2本)、Dフェース頭(2本) テーブルリッジ～1ピッチ終了点(2本) 3ピッチ終了点(1本)、4ピッチ終了点(1本) 作業4名	10.18	東大壁佐藤ルート～八の字クラック終了点(2本) Aカンテ～1ピッチ終了点(2本) 漆畑ルート～取付(2本) 大壁中央バンドトラバース(2本) 作業5名
9.9	観音岩～終了点(2本) 雨天-作業中止 5名	10.28	ピナクルリッジ～1ピッチ終了点(2本)、2ピッチ終了点(2本)、3ピッチ取付(2本) 作業3名
10.30	四段テラス～東大壁中央バンドまでのアプローチ道の偵察 1名	11.12	四段テラスから東大壁中央バンドまでのアプローチ道の整備 作業4名
11.1	東大壁佐藤ルート～ラッペルポイント2ヶ所にチェーン設置 中央バンドトラバースルートに追加(2本) 漆畑ルート頭・終了点(2本) 漆畑ノーマル草付き手前(1本) 作業3名	☆協議会が整備予定しているビレイポイント数は、4岩場39ルートの116ポイントで、昨年度はラッペルポイントを含め35ポイントの整備を完了。 ☆整備募金は11月末現在、27個人・団体より632,000円 余りが寄せられている。	

# 国有林林道車輛通行規制情報

平成22年8月及び同23年9月の台風12号による豪雨で、道内国有林林道の一部が路面決壊や土砂崩れなどにより車輛の通行が規制されている。

以下、北海道森林管理局告知の規制状況を掲載する。

## (林道通行止め路線)

層雲峡本流林道(沼ノ原・五色ヶ原)※H24も規制継続(24.2文書告知)

上俵真布林道(扇沼山・トムラウシ山)※H24.6復旧予定、登山口に通ずる台地林道2.2kmは新規車輛通行規制  
ヌプントムラウシ林道(ヌプントムラウシ温泉・沼ノ原)

由仁石狩林道(ユニ石狩岳・音更山)※上川町側～登山口 H24も規制継続(24.2文書告知)

音更川本流林道(石狩岳・ユニ石狩岳)※H24.6末復旧予定。それまではシノガ迂回林道経由で車輛通行可  
糠平川林道・糠平川迂回林道(糠平コース～ウペペサンケ山)

支然別川支線林道(菅野温泉西コース～ウペペサンケ山)

古川砂金越林道(ニセイカウシュッペ山)※10月降雪による倒木

支湧別本流林道(平山)

鹿島林道(夕張鹿島～夕張岳)

森田ノ沢林道(南富良野金山～夕張岳)

歴舟川支流林道(ポンヤオロマップ岳・ペテガリ岳)

## (登山道通行止め路線)

沼ノ平松仙園コース(愛山溪～沼ノ平分岐)※登山道荒廃

美瑛岳コース(十勝岳雲ノ平～美瑛岳)※北向沢渡渉点崩壊。残雪で沢が埋まっている間は歩行可

三段山崖尾根コース(三段沼～三段山)※がけ崩れ

原始ヶ原滝コース(滝コース分岐～原始ヶ原分岐)※丸木橋流出、がけ崩れ危険

安政火口遊歩道 ※落石危険

★林道通行止め路線は、北海道森林管理局HPで「規制解除時期未定」としたものを掲載。

9月豪雨後、降雪が近いため補修工事を実施せず、雪解け後に補修し規制解除の可能性のある路線も含まれていることから、夏山シーズン始めの登山を予定している場合は、森林管理局HP又は所轄森林管理署に確認のこと。

## 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.64 平成23年2月15日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄